

道路の中期計画についての提言

1. 道路の現状と課題

1) 現状

私は、現状の道路事情を検討するに当たっては遠方のことは良く分かりませんので、小川村の近郊の道路事情を考察してみたいと思います。この考察は一応車で異動する為の道路という前提で2箇所を課題としてすすめて参ります。

その第一は長野市街地付近の通勤渋滞解消であります。以前に比べますと随分解消がなされて来ておりますが、まだまだ不十分であります。そのことは長野市を中心とした周辺地域の市町村の過疎化防止や、長野市を中心とした地域経済の発展に大きな意味合いを持つからであります。都市部集中型の人口形体は、周辺地域のみならず都市部地域にとっても決してよい傾向ではありません。ここで何故良くないかの理由を申し上げることは省かせていただきます。そこで私は今の長野市街地を取り巻く環状道路を提案いたします。以前にも環状道路計画話がありましたが、なんとなく取り止めの様な状態でありますので是非その計画を復活してもらいたいのです。これが県都長野市の国道整備行政での最大の課題であると信じており、長野市を始め周辺地域が大きく変る要因の第一であると思います。

次に必要な道路は「糸魚川ー松本」連絡道路であります。白馬村は冬季オリンピック開催地の一つで全世界に、にその名声を轟かせました。そのおかげでウインタースポーツの愛好者はかなり大北地域に集中して来たと感じておりました。隣接の私共から見ていてその賑わいは羨むほどでした。しかしその賑わいもたったの2年ほどでした。ガタ減り状態に陥ってしまったのです。なぜかというとな色々な要素は沢山あるかと思いますが、最も大きな要因はとんでもない交通渋滞を引き起こしてしまったと言うことです。特に日曜日の返りの道では、ひどい時には白馬から豊科インターまで数珠つなぎ状態で、普段であれば1時間ほどのところを6時間も掛かってしまうと言うような事が言われました。2年続けて大渋滞に巻き込まれてしまえば、「あそこは混む」との事が常識化してしまうのは当然だと思います。大北地域はスキーヤーからすっかり見放された感がありました。

それに加えて今では、少子高齢化やウインタースポーツ離れ、長期経済の落ち込み等々で一向に回復の兆しは見えてきておりません。一刻も早く糸魚川ー松本連絡道路の建設に着手することが望まれます。

2) 課題

今日、国を始めとして自治体の公共事業は無駄使いの代表みたいに言われております。私自身土木技術者の一人として大変に嘆かわしい事態だと憤懣をしております。その事の原因には、マスコミも一役買っているようにも思われますが、自主的に買って出ているのではないと思います。マスコミによる宣伝効果といいますか、悪い言葉でいえば誘導効果と言いますか、その影響力は大変大きなものであります。少なくとも国を始め県、市ぐらいの自治体まではもっとマスコミを利用すべきと考えます。国民意識を高揚させるということが重要では無いかと思います。

土木技術をCivil Engineeringと言います。Civilとは公民とか共同社会とかと言う言葉に訳されるようです。少し変えた言い方をすれば「公と民」とは国を始めとする自治体そのものであります。土木の代表的な仕事の中に道路を作ることにも含まれております。言い換えれば道路は公共的文化施設であります。「道路の整備なくして地域の発展なし」と定義づけても良いのではないのでしょうか。自治体は長期の都市計画を立ててそれに向って進行することが望ましいと私は考えます。それから相対的理論であります、一極重点主義というのは、ともすれば不平等ではないかと言った理論を巻き起こしかねないので慎重さは必要だと思います。

道路管理については、特に中山間地において元気な高齢者が多くなっています。このことは社会現象の一つと捕らえられております。当村で言えば「人材活用センター」とかといったグループに側溝やガードレールの清掃などを管理委託することにより地域の活性化とかコミュニティと言ったものに大きく貢献するような気がします。土木業者の仕事はやや減少しますが社会全体を比較するとおそらく金銭的な経費も安くなり「一挙両得」で面白いのではないかと思います。

まだまだ申し上げたいことは沢山ありますが今回はここまでとさせて戴きます。とんでもない事を申し上げてしまったような気がしますがとりあえず意見ということでもありますのでご容赦を願います。

国土交通省 道路局長 殿

平成19年4月

小川村長 大日方茂木

